



竹林

白河市立五箇中学校だより

No 14

発行日 令和4年7月8日
発行責任者 校長 小林 敏史



白河市長賞を受賞、素晴らしい発表でした！ ～ 白河市少年の主張大会 ～

4日(月)、本校代表として白河市少年の主張大会に出場した小松直輝さんが、見事白河市長賞(第1位)に輝き、県審査へ推薦されることとなりました。おめでとうございます。小松さんは、とても落ち着いた様子で堂々と自分の意見を述べていました。他校の先生からも「内容が素晴らしく、大人の私たちも深く考えさせられた発表でした。」と絶賛されていました。 ※ 原文を裏面に掲載しました。



(受賞後の記念撮影 中央が小松さん)

また、同日行われた舞台芸術鑑賞教室では、「オペラの不思議と魅力」と銘打ち、三宅理恵さん(ソプラノ)、吉川健一さん(バリトン)、石野真穂さん(ピアノ)の素敵な演奏を堪能しました。日頃生で聴くことのできない声楽のプロの歌声に、楽しい時間を過ごすことができました。

東北大会の切符を手に入れました！ ～ 県中学校陸上競技大会 ～

5日(火)から3日間にわたって行われた県中学校陸上競技大会。県南代表として男子3年100mに齋藤正弥さんが出場しました。初日は雷雨のため予選が中止となり、2日目に予選、準決勝のレースが行われ、見事通過。3日目の決勝では、11秒44というタイムで3位に入賞し、東北大会の切符を手に入れることができました。東北大会は、8月8日(月)から青森県で開催されます。今度は全国の切符を目指して、走り抜いてほしいと思います。



(決勝での走り)



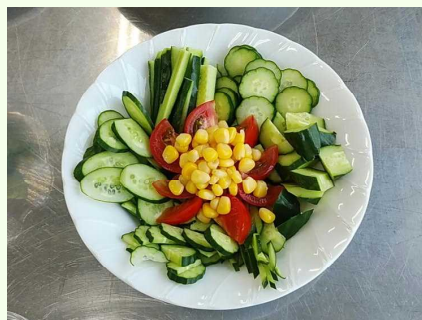
(賞状とメダルを手に入)



今週の授業のーコマ



2年生の家庭科の授業で、今年初めての調理実習を行い、野菜サラダを作りました。包丁さばきの慣れていない生徒もちらほら。ドレッシングは、サラダオイル、醤油、酢をベースに、塩、コショウや昆布だしの素などの調味料を使い、各自好みの味に仕上げていました。私もごちそうになりましたが、とっても美味しくできていました。ごちそうさま！



< 次週の予定 >

11	月	朝会 人権教室(2・3年) 奉仕部活動日
12	火	職場体験学習(2年) ※弁当持参日、部活動中止日
13	水	職場体験学習(2年) 介護体験学習(3年) ※弁当持参日、部活動中止日
14	木	週末課題確認テスト(社会) ※実力テスト前部活動中止日
15	金	実力テスト(2年生) 諸会費納入日



◇◇ 今週の言葉 ◇◇

一番いけないのは、
自分なんかダメだと思い込むことだよ。

～ 野比のび太(小学5年生)の一言 ～



「誹謗中傷」と「批判」

白河市立五箇中学校 3年 小松 直輝

「きもい。死ね。」

これは、先日YouTubeのコメント欄で見つけた、誹謗中傷のコメントです。近年は、ネットの普及により誹謗中傷が増えています。特にSNSでは、誹謗中傷による自殺者も出ており、大きな問題になっています。「誹謗中傷をしてはいけない。誹謗中傷は立派な犯罪だ。」と耳にしたことがある人も多いと思います。

しかし、僕の心には、ある一つの疑問が生まれました。「悪いことを悪いと指摘することも、誹謗中傷になってしまうのだろうか。」と。

例えば、現在世界ではロシアによるウクライナ侵攻が問題となっています。連日、テレビではロシアに対する否定的な意見が飛び交っています。このような意見発信も、悪いことなのでしょう。気になって調べてみたところ、ある記事に「誹謗中傷はよくないが、『正しい批判』はこの世の中に必要である。」と書かれていました。なるほど、と思ったのも束の間。「誹謗中傷」と「批判」。いったい何が違うのだろうか。僕の心には、再び疑問が生じました。

さらに調べてみると、「誹謗中傷」は「他人への悪口を言ったり罵ったりする行為」や「根拠のない嘘やでたらめを述べる行為」であり、「批判」は「良いところ、悪いところをはっきりと見分け、評価・判定すること」でした。

これらから僕は、大きな違いを2つ感じました。1つ目は「根拠に基づいているか」ということ。2つ目は「他人を攻撃し、傷つけようとする意思があるか」ということです。これらの違いを、先ほどのロシアを例にして考えてみましょう。

「戦争の原因は全てロシア人にある。日本からロシア人を排除しよう。」この発言には、何の根拠もありません。また、ロシアの方々を攻撃しようとする意思があります。そのためこの発言は「誹謗中傷」にあたります。

一方で、このような発言はどうでしょう。「ロシアの行いは戦争犯罪にあたる可能性がある。今すぐ戦争をやめるべきだ。」この発言は客観的な事実に基づいており、誰かを攻撃しようとする意思は感じられません。よってこの発言は「批判」にあたります。

このように「誹謗中傷」と「批判」は、根拠に基づいているか、攻撃しようとする意思があるか、という2点からある程度の判別ができます。

しかし、自分が「批判」として発言したつもりでも、「誹謗中傷」になってしまう危険性は残ります。また、何気ない発言が「誹謗中傷」になる場合もあります。そのような思いがけない「誹謗中傷」を防ぎ、「批判」をするためには、どうすればよいのでしょうか。僕は対策が2つあると思います。

1つ目は、対人意識を持ち、文章の見直しをすることです。ネットでは画面に向かって発言をします。そのため、対面なら絶対に言えない攻撃的なことが簡単に言えてしまいます。しかし、画面の向こうには、必ず人がいます。そのことを絶対に忘れてはいけません。対人意識をもち、文章の見直しをすることで、攻撃的な文を書くことを防げます。

2つ目は、正しい情報収集です。ネットの「誰でも投稿できる」という性質上、ネットには大量のデマも流れています。1つの情報だけを信じて意見発信することは、根拠に基づいていいるとは言えません。根拠をもたせるためには、複数の情報を確認し、物事を様々な面からみて判断しなくてはなりません。複数の記事を見比べ、情報を正しく受け取ることが重要なのです。

僕が述べた2つの対策は、よく聞く小さな事かもしれませんが、しかし、小さな努力の積み重ねこそが「誹謗中傷」を防ぎ、正しい「批判」をする第一歩になると、僕は信じています。

今日ここで僕の発言を聞いてくださった皆さんには、「誹謗中傷」について改めて考えていただき、先ほど言った2つのことを実践してほしいと思います。尊い命を奪ってしまう前に。